

宇都宮都市交通戦略 施策事業評価表Ⅱ

1. 施策の目的と目標

□目標とする交通環境	Ⅱ. まちづくりに資する交通環境を整備する	□目的	自動車依存型社会により拡散した都市となった宇都宮市を改善し、都心部を中心とした市街地の魅力を向上し、人・都市機能の集約に資する都市の交通基盤となる公共交通の充実・強化を目指す。				
□施策の体系	1 市街化区域の公共交通空白（不便）地域を解消する 2 トランジット施設に、地域の拠点性を高める機能を整備する 3 中心市街地の回遊性を高める		4 自転車を快適に利用できる環境を整備する 5 車や公共交通等が円滑に通行できる道路を整備する				
□目標指標	指標名	基準数値 (a) (基準年)	数値 (b) (評価年)	目標数値 (c) (目標年)	進捗状況 (%) 基準年(a/c) ⇒ 評価年 (b/c)	進捗評価	
	(1) 公共交通夜間人口カバー率（市街化区域）	75.0% (H20年度)	86.2% (H27年度)	100% (H30年度)	75.0% ⇒ 86.2%	順調に進捗している	
	(2) 中心市街地通行量（休日）	旧	46,987人 (H21年) ※10地点	—	49,300人 (H26年) ※10地点	95.3% ⇒ —	—
		新	—	92,080人 (H27年：隔年調査) ※28地点	(* ) 130,000人 (H31年) ※28地点	— ⇒ 70.8%	近年は増加傾向であったが、減少に転じた
(3) レンタサイクル利用者数	31,000人 (H21年度)	45,582人 (H27年度実績)	41,000人 (H27年度)	75.6% ⇒ 111.2%	目標を上回っている		

\* 新計画策定により改定

2. 「短期的施策事業」における重点施策事業の進捗状況

(凡例) ◎: 予定どおりに実施 ○: おおむね予定どおりに実施（一部未完了） △: 一部未実施

施策事業名	事業主体	H27年度 実施状況	H28年度 当初予定	H28年度 実施状況	H28年度 評価	H29年度 当初予定
Ⅱ-1-① 幹線バスの運行サービスの充実	バス事業者 宇都宮市	○東国書館線運行継続(東野) ○インターパーク線ほか6系統運行継続(東野) ○今宮線の自主運行への移行(関東) 年間のべ約5万人利用 ○LRTを見据えた路線再編の検討 →11月 芳賀・東部地域公共交通網形成計画策定 ○バス停の新設(JRバス) ○利用環境整備 →河内自治センターバス停上屋整備	○今宮線の運行継続(関東) ○駅東側におけるバス路線再編の検討	○益子線のベルモール経由の運行開始(東野) ○今宮線の運行継続(自主運行への移行)【再掲】 ○JR宇都宮駅東側におけるLRTの導入と合わせたバスネットワーク再編の検討【再掲】 →運行ルート、運行本数等の検討、バスネットワーク再編案の作成	◎ ◆既存路線である「益子線」について、利用者のニーズを踏まえオフピーク時にベルモール経由にルート変更し、利便性の向上を図るとともに、H27年度の社会実験路線である「今宮線」について、バス事業者の自主運行へ移行し運行を継続することで、バス路線の充実を図っている。 ◆JR宇都宮駅東側のバス路線再編の検討のなかで、幹線バスの維持・拡充について検討を行っている。  ◇引き続き、公共交通不便地域の解消と利便性の向上を図るため、バス路線再編などの機会を捉えながら、幹線バスの運行サービスの充実について検討する必要がある。	○JR宇都宮駅東側におけるLRTの導入と合わせたバスネットワーク再編の検討【再掲】 →バス事業者との協議・調整
Ⅱ-1-② 循環バス(ミニバス)の運行	バス事業者 宇都宮市	○きぶなの運行(関東) ○平松本町線の運行(関東) ○越戸・ベルモール循環線、花園町・卸団地線ほか2系統の運行(東野)	○循環バスの運行継続	○循環バスの運行継続(既存路線)【関東自動車】 市内循環線「きぶな」、戸祭台循環線、宇大循環線、平松本町線、今宮線【東野交通】 越戸・ベルモール循環線、花園・卸団地線、市役所・卸団地循環線の運行 ○JR宇都宮駅東側におけるLRTの導入と合わせたバスネットワーク再編の検討【再掲】 →運行ルート、運行本数等の検討、バスネットワーク再編案の作成	◎ ◆既存の循環バスの運行を継続し、移動手段の維持・存続を図っている。  ◇引き続き、バス路線再編などの機会を捉え、基幹・幹線公共交通へのアクセスや、日常生活の足としての循環バスの新設・拡充について検討を進める必要がある。	○既存の循環バスの運行継続 ○JR宇都宮駅東側におけるLRTの導入と合わせたバスネットワーク再編の検討【再掲】 →バス事業者との協議・調整
Ⅱ-3-② 都心部道路景観整備事業	宇都宮市	○ユニオン通り(市道3号線) →事前の支障物移設 →電線共同溝築造工事(186m) ※工事内容の精査により延長短縮 →地元勉強会の実施(8回)	○ユニオン通り(市道3号線) →電線共同溝築造工事(76m) →地元勉強会の実施(5回) →照明工事	○ユニオン通り(市道3号線) →電線類地中化工事(76m) →地元勉強会の実施(2回) →照明工事	○ ◆ユニオン通りにおいて、電線類の地中化やこれに伴う照明工事を行うなど、道路景観形成の取組を推進している。  ◇引き続き、都心部の景観を形成するため、ユニオン通りの電線類地中化工事に着実に取り組む必要がある。	○ユニオン通り(市道3号線) →ケーブル入溝工事 →道路整備工事

施策事業名	事業主体	H27年度 実施状況	H28年度 当初予定	H28年度 実施状況	H28年度 評価	H29年度 当初予定
Ⅱ-3-④ レンタサイクルの充実	宇都宮市	○駐輪場レンタサイクル →レンタサイクルの実施 →配備台数の随時調整  ○観光レンタサイクル(5か所) →宿泊施設による自主事業への移行後も継続的に運営	○駐輪場レンタサイクル →レンタサイクルの実施 →配備台数の随時調整 →JR岡本駅西口駐輪場でのレンタサイクル開始  ○観光レンタサイクル →レンタサイクルの拡充に向けて、他都市の取組事例の把握などの調査	○駐輪場レンタサイクル →レンタサイクルの実施(市営) (H27:7箇所→H28:8箇所) →配備台数の随時調整 (H27:165台→H28:177台) →他都市の取組事例の調査  ○観光レンタサイクル →宿泊施設による自主運営の継続	◎  ◆駐輪場レンタサイクルについて、JR岡本駅西口市営駐輪場の供用開始に伴い、実施箇所数、配備台数ともに増加したものの、利用者数は微減となる見込みである。(H27:45,582人⇒H28見込み:45,106人)  ◇引き続き、中心市街地の回遊性向上を図るため、配備台数の適切な調整を実施しながらレンタサイクル事業に取り組むとともに、利用促進を図るための手法についても検討する必要がある。	○駐輪場レンタサイクル →レンタサイクルの実施(8箇所) →配備台数の随時調整 →他都市の先進事例の調査・検討
Ⅱ-3-⑤ モビリティセンターの整備	宇都宮市	○宮サイクルステーションの運営 →スポーツバイクセミナーの実施	○宮サイクルステーションの運営	○宮サイクルステーションの運営 (H27.4-12月:948人 ⇒H28.4-12月:705人)	◎  ◆前年度から継続して指定管理者によるセミナーなどを実施しているが、利用者は減少傾向にある。  ◇指定管理者と連携し利用者のニーズを把握しながら、利用促進に向けたサービス内容について検討する必要がある。	○宮サイクルステーションの運営
Ⅱ-4-③ 自転車道の整備	国 栃木県 宇都宮市	○自転車専用通行帯 →国道119号 →旧鹿沼街道(市道4866号線)など5路線(4.1km) ○サイクリングロード →田川・山田川サイクリングロード(2.5km) →鬼怒川サイクリングロード周回コース	○自転車専用通行帯 →白陽高校北(市道3761号線)など8路線(7.0km) →今後の「整備計画」策定 ○サイクリングロード →山田川サイクリングロード(1.2km)	○自転車走行空間の整備 (自転車専用通行帯・矢羽根) →奥州街道など16路線(18.8km) ○サイクリングロード →山田川サイクリングロード(2.0km) →鬼怒川サイクリングロード周回コース(8.0km)	◎  ◆国庫補助金を活用しながら、当初予定を上回る路線数、延長を整備した。  ◇引き続き、自転車走行の利便性・安全性を高めるため、自転車専用通行帯等について、国・県・市道の管理者とも連携して連続性を確保しながら整備に取り組む必要がある。	○自転車走行空間の整備 →柳田街道ほか(4.5km) ○サイクリングロード →山田川サイクリングロード(0.3km)

### 3. 都市交通戦略に計上されていない主な施策事業の進捗状況

(凡例) ◎:予定どおりに実施 ○:おおむね予定どおりに実施(一部未完了) △:一部未実施

施策事業名	事業主体	H27年度 実施状況	H28年度 当初予定	H28年度 実施状況	H28年度 評価	H29年度 当初予定
トータルデザインの推進	宇都宮市		○トータルデザインの推進 →デザインコンセプトの検討 →車両外観、停留場、サイン等のデザインの検討	○トータルデザインの推進 →LRTデザイン部会の開催 →LRT車両や各種施設、設備などの利用者が接する全ての要素についての統一したコンセプトの検討、公表 →車両外観、停留場、サイン等のデザインの検討	◎  ◆LRTデザイン部会における検討を通して、LRT車両等のデザインの統一したコンセプトを決定し、公表するなど、まちづくりに資するデザインの検討を進めている。  ◇引き続き、車両や各種施設のデザインの詳細について検討を進めるとともに、トータルデザイン事業への市民参画に向けた検討を進める必要がある。	○トータルデザインの推進 →LRTデザイン部会の開催 →LRT車両や各種施設、設備などのデザインの検討 →トータルデザイン事業への市民参画の推進

都市交通戦略に計上されていない施策事業であるが、近年、進捗している取組であるため掲載している。このため、進捗評価の対象外とする。

### 3. 施策の評価

＜Ⅱ-1＞市街化区域の公共交通空白・不便地域の解消  
・都市拠点と地域拠点を結節する幹線バスの充実や都市拠点などを運行する循環バスの維持・存続に取り組むことにより、公共交通夜間人口カバー率が向上し、公共交通空白地域の解消が図られている。

＜Ⅱ-3＞中心市街地の回遊性の向上  
・ユニオン通りにおける電線類地中化工事やレンタサイクル事業により、中心市街地における景観の整備と回遊性向上に取り組んでいる。

＜Ⅱ-4＞自転車を快適に利用できる環境整備  
・自転車専用通行帯や矢羽根などの自転車走行空間を整備することにより、自転車利用者の安全性や快適性の向上に取り組んでいる。

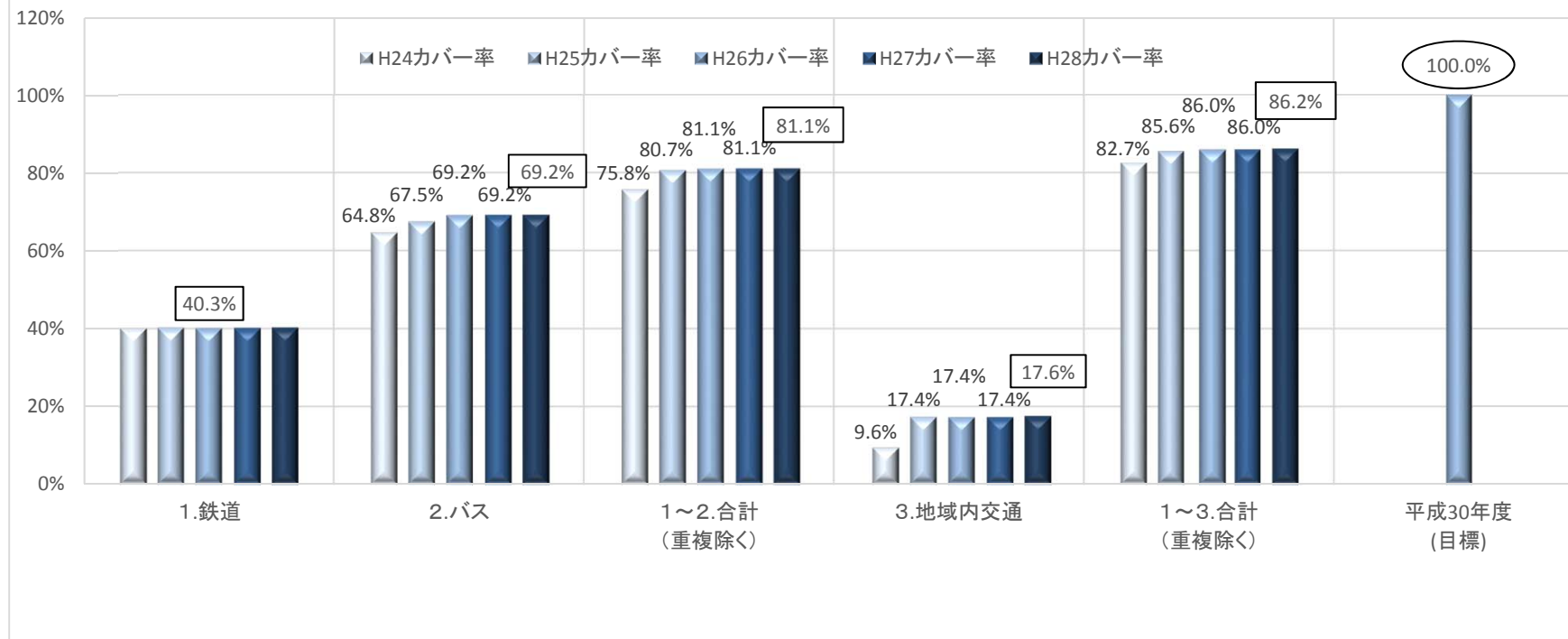
### 4. 取組の方針

＜Ⅱ-1＞市街化区域の公共交通空白・不便地域の解消  
・引き続き、LRTの導入と合わせたバス路線再編などを見据え、幹線・支線からなるバスネットワークの構築を図り、バス路線全体のサービス水準の向上を図ることにより、公共交通空白・不便地域の解消に取り組む。

＜Ⅱ-3＞中心市街地の回遊性の向上  
・引き続き、都心部の道路景観を整備するとともに、鉄道による来訪者等の二次交通としてレンタサイクルの利用を促進するなど、都心部の回遊性の向上を図ることにより、中心市街地の通行量の増加に向けて取り組む。

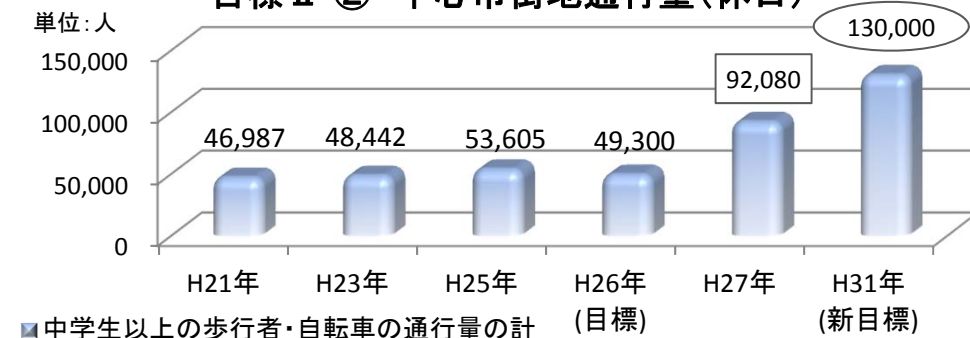
＜Ⅱ-4＞自転車を快適に利用できる環境整備  
・引き続き、自転車専用通行帯や矢羽根など道路環境に適した手法による自転車走行空間の整備を推進し、自転車利用者の利便性向上に取り組む。

### 目標Ⅱ-① 公共交通夜間人口カバー率(市街化区域)



【利用圏域】1. 鉄道: 1,500m    2. 地域内交通: 当該自治会エリア全域    3. バス: バス停から半径250m  
 【算出方法】H17国勢調査(合併旧町含む)100m夜間人口メッシュの重心が利用圏域に含まれる場合、メッシュ内の全ての人口を利用圏域内人口

### 目標Ⅱ-② 中心市街地通行量(休日)



### 目標Ⅱ-③ レンタサイクル利用者数

